

森林防疫

FOREST PESTS

– 森の生物と被害 –



目次

論文

- 福島県林業研究センター構内のイヌエンジュから羽化脱出したサビイロクワカミキリ
[齋藤直彦・小野武彦] 3

論文

- シカ・カモシカ生息地のスギ造林地における防護柵管理の一例
—どの程度の見回りをしていつ直すか—
[大谷達也・米田令仁] 11

論文

- 長野県におけるスギ壮齡林の梢端枯れ被害
[柳澤賢一・小山泰弘] 21

論文

- ‘染井吉野’切枝の樹皮表面の形状や着生植物がクビアカツヤカミキリの産卵選好に
与える影響
[法眼利幸・小田奈津子] 30

解説

- 新たな防除マニュアル「マツ材線虫病にどう対処するか
—防除対策の考え方と実践—」について
[中村克典] 37

記録

- 東京大学北海道演習林における虫害の観察記録－1980年からの43年間－
[井口和信] 42

新刊紹介

- 【電子版】マツ枯れは森の感染症 森林微生物相互関係論ノート
[中村克典] 49
都道府県だより：群馬県・秋田県 50



A



B

[表紙写真] 長野県で観察されたスギの梢端枯れ

写真A：山林内で発見された梢端枯れを起こしたスギ壮齡木（長野県辰野町）

写真B：被害を受けた梢端部の状況（松本市四賀の被害木）

2022年6月に松本市四賀をはじめ全県下で確認されたスギの梢端被害は、北向き斜面の突出木を中心に点々と発生していた。クマ剥ぎのように被害は点在していたものの、どの被害地でも突出した梢端部と、林縁側の陽光をしっかりと受けることが出来る側枝のみが被害を受けており、木全体が枯死するということはなかった。被害木のサンプルを検査したところ、梢端部でも側枝でも枝先の一部のみが枯れており、被害枝の変色部における横断面の多くには凍傷痕がないため、今回の被害は主に寒風害によるものと考えられた。しかしながら、一部で凍傷痕と考えられる変色も観察されたことから、本被害は寒風害と凍害による複合被害の可能性が示唆された。

（長野県林業総合センター 柳澤賢一・小山泰弘）